

ルミセフ®の自己注射を行っている
患者さんにご家族の方々へ



<第9版>

監修：医療法人桜仁会 いがらし皮膚科東五反田 院長 五十嵐 敦之 先生

目次

ルミセフ®について…………… 2

自己注射の方法

 ペンの場合…………… 5

 シリンジの場合…………… 11

よくあるご質問…………… 19

ルミセフ[®]について

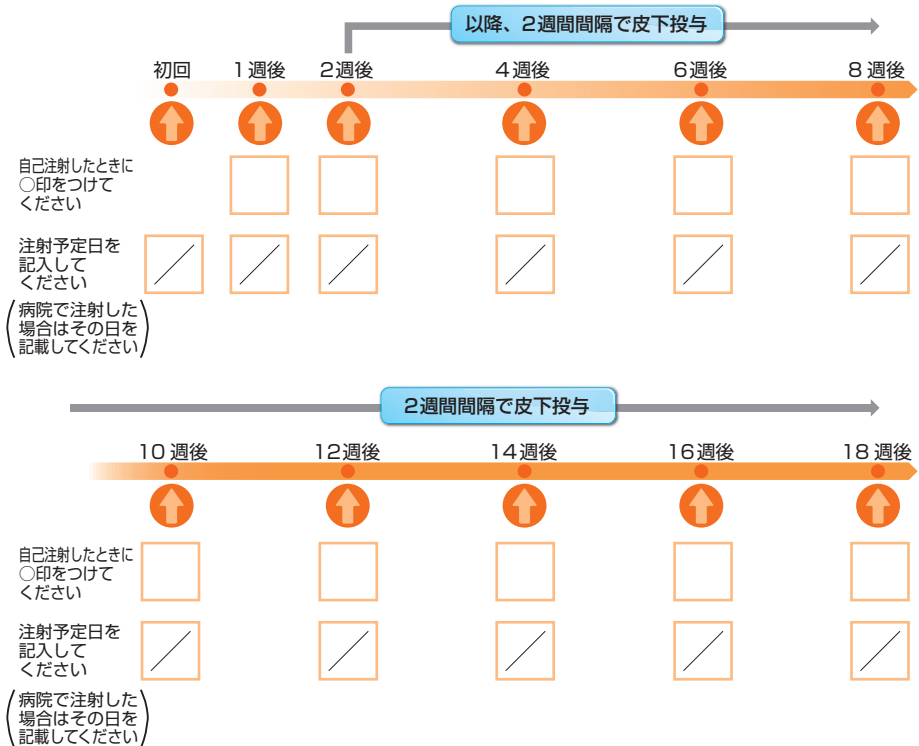
ルミセフ[®]とは

ルミセフ[®]は「ヒト型抗ヒトIL-17受容体Aモノクローナル抗体製剤」と呼ばれる生物学的製剤で、注射剤（皮下注射）です。

尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、強直性脊椎炎、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、しょうせき掌蹠膿疱症の治療薬です。

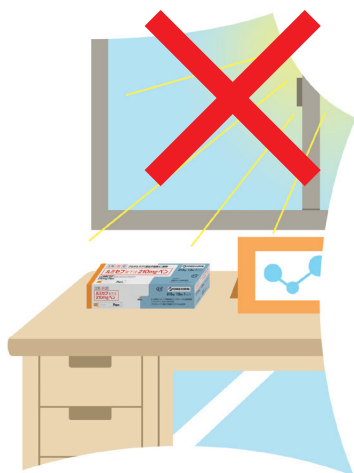
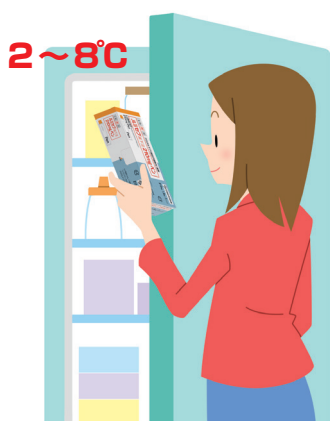
ルミセフ[®]の注射スケジュール

通常、成人にはプロダルマブ（遺伝子組換え）として、1回210mg（1本）を、初回、1週後、2週後に皮下投与し、以降、2週間の間隔で皮下投与します。注射する時間は何時でもかまいません。



ルミセフ[®]の保管方法

- 箱に入れたまま、冷蔵庫^{*}(2～8℃)で保存してください。
※チルド室を除く
- 凍結させないように、注意してください。
- 直射日光に当たる場所に放置せず、外箱から取り出した後も光を遮るよう^{さえぎ}にしてください。
- 小児の手の届かないところに保管してください。
- ペンは、水などにつからないようにしてください。



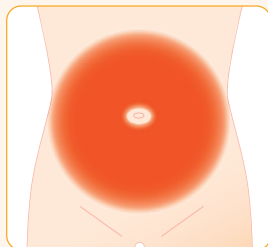
ご使用前の注意

- ご使用前にお薬の名称を確認してください。
- お薬を強く振らないでください。
- ご使用前に外箱及びラベルに表示されている使用期限を必ず確認してください。
- 外箱開封後は直ちに使用してください。

注射する部位

- ルミセフ[®]は「腹部」「上腕部（二の腕）の外側」「大腿部（太もも）」のいずれかに注射します。ただし、同じ個所に繰り返し注射せずに、注射するたびに少しずつずらしてください。

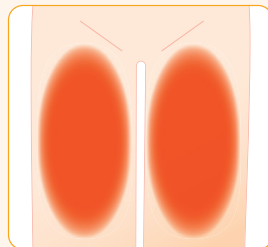
腹部



上腕部（二の腕）の外側



大腿部（太もも）



※脂肪の多い個所への投与が推奨されます。

- 前回注射した部位から3～5cm以上離れた部位に注射しましょう。
- 皮膚が敏感な部分、皮膚に傷、湿疹、赤味などがある部分や、乾癬のある部位、特に、盛り上がっている部位、痛みのある部位、赤くなっている部位、傷がある部位、硬くなっている部位などには注射しないでください。
- ルミセフ[®]は1本につき1回のみ使用するお薬です。一度使用したペンやシリンジ（注射器）は再度使用してはいけません。
- ご自身で注射される場合は、「腹部」、「大腿部（太もも）」に注射します。

自己注射の方法(ペンの場合)

投与前の準備

1 必要なものをそろえる

注射に必要なものをそろえてください。

●外箱



あらかじめ、冷蔵庫から出して室温に戻しておきます。
※目安として、冷蔵庫から出した後室内に15～30分程度置いておきます。

**電子レンジやお湯などで温めないでください。
室温で長時間放置しないでください。**

●アルコール綿など (消毒用、止血用)

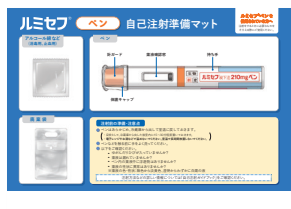


※アレルギーなどでアルコール綿
が使えない方は、主治医の指示
に従って消毒用、止血用の綿を
ご使用ください。

●廃棄袋



●準備マット(ペン用)



●体調管理手帳



2 手を洗う

ペンなどを触る前に手をよく洗ってください。



3 ペンを取り出す

外箱からペンを取り出してください。

以下のような場合は、使用せず主治医に連絡してください。

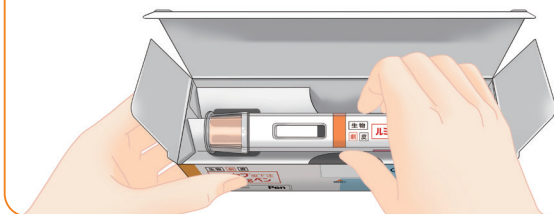
- ゆがんだりひびが入っている。
- 薬液が漏れている。
- 薬液の性状に異常がある。
- ペン内の薬液中に浮遊物がある。

※薬液の色・性状：無色から淡黄色、澄明からわずかに白濁の液

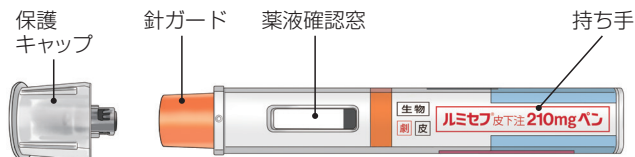
● 外箱



外箱からペンを取り出す



● ペン 各部の名称

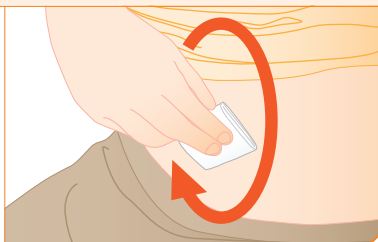


針ガードは針をカバーするものでキャップではありません。針ガードに触らないようにしてください。

自己注射の方法【腹部の例】

1 消毒する

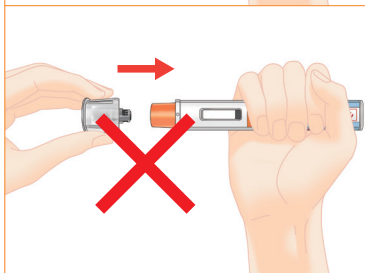
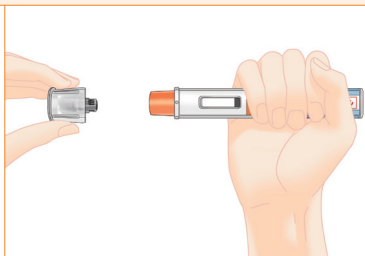
注射する部位を決めたら、その部位を円を描くようにアルコール綿などでふき、注射する部分の皮膚を消毒してください。



2 キャップを外す

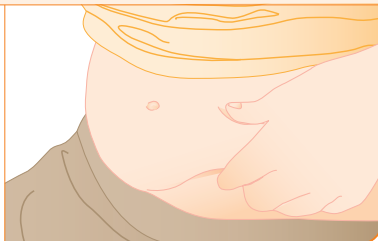
保護キャップを引き抜きます。**回転させず**に強めに力を入れて引き抜いてください。保護キャップは取り外し後、すぐに捨て、保護キャップを再度取り付けないでください。

- 保護キャップを外した後、すぐに使用してください。
- 保護キャップを外すと、埋め込まれたシリンジの無菌性が損なわれますので、ペンのキャップを外した状態で保管しないでください。



3 皮膚をつまむ

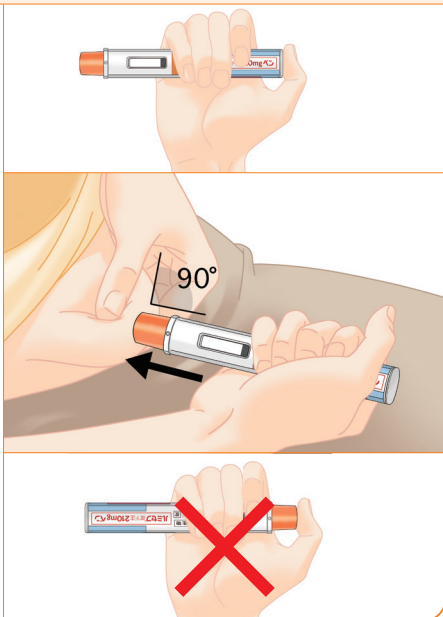
消毒した部分の周囲の皮膚を軽くつまんでください。



4 ペンを皮膚に当てる

ペンを正しい向きで握ります。ペンを皮膚に対して直角(90°)になるように当てて、「カチッ」と音がするまで押します。オレンジ色の針ガードが見えなくなるまでしっかり押し付けることで、針が皮膚の中に入ります。1度「カチッ」と音がすると、薬液の注入が始まりますので、ペンを動かさずに保持してください。

- ペンを持つ向きに注意してください。逆向きを持って手で針ガードの部分を押すと、針刺しのリスクがあります。



5 注入する

2度目の「カチッ」という音が鳴り、注入の終了をお知らせします。2度目の「カチッ」という音の後、ペンを5秒間そのままの位置で保持します。注入が終了すると、表示窓がオレンジ色に変わります。

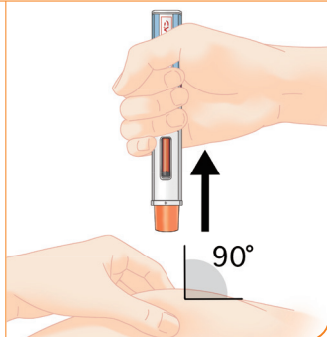
- 薬剤の注入が始まると、グレーのインディケーターが下に移動します。
- 注入中はペンを皮膚から離したり、傾けたり、回転させたりしないでください。



6 ペンを皮膚から離す

ペンを90°の角度で皮膚から離します。皮膚から離れた後、針刺し事故防止のために針は針ガードで隠されます。針ガードには触らず、保護キャップは再度取り付けないでください。

- ペンを傾けたり、回転させずに皮膚から離してください。



7 アルコール綿などで押さえる

ペンを皮膚から離れた後、アルコール綿などで静かに10秒程度押さえます。アルコール綿などを外して血が出ていない事を確認したら注射は終わりです。

注射した部位をもむとはれることがあるので、もまないように注意してください。使用後のペンは廃棄袋に廃棄してください。※ 針で指をささないように注意してください。



廃棄について

- 使用済みのペンなどが入った廃棄袋の廃棄方法は、主治医の指示にしたがってください。
- 使用済みのペンは保護キャップをつけずに廃棄袋に廃棄してください。
- 廃棄袋に入れたペンは、小児の手の届かないところに保管し、家庭用のごみと一緒に捨てないでください。
- 特に指示がない限り、保護キャップ、外箱、およびアルコール綿などは家庭ごみとして各市町村の収集方法に従い捨ててください。



注射部位と注射した日の記録

注射した部位と注射した日をルミセフ®の『体調管理手帳』に記録し、次回の注射に備えましょう。

また、病院に行く際は注射の記録を持参し、医師や看護師のチェックを受けてください。



このような場合は、病院に連絡を

ルミセフ®を注射した後に、「いつもと何か違う」と感じたら、速やかに病院に連絡してください。

特に次のような症状があらわれた場合には、**次の受診日を待たずに、すぐに主治医や医療スタッフに連絡してください。**

胸 部：せきがつづく。

口や喉：嘔吐、のどの痛み、口唇周囲のはれ。

皮 膚：かゆみ、じんましん、発疹。

全 身：かぜのような症状、からだがだるい、発熱、さむけ、ふらつき、異常に汗をかく。

自己注射の方法(シリンジの場合)

投与前の準備

1 必要なものをそろえる

注射に必要なものをそろえてください。

●外箱



あらかじめ、冷蔵庫から出して室温に戻しておきます。
※目安として、冷蔵庫から出した後室内に15～30分程度置いておきます。

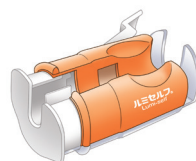
**電子レンジやお湯などで温めないでください。
室温で長時間放置しないでください。**

●アルコール綿など (消毒用、止血用)

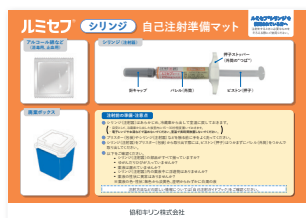


※アレルギーなどでアルコール綿が使えない方は、主治医の指示に従って消毒用、止血用の綿をご使用ください。

●補助具



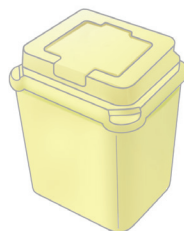
●準備マット(シリンジ用)



●体調管理手帳



●廃棄ボックス



2 手を洗う

プリスター(包装)やシリンジ(注射器)などを触る前に手をよく洗ってください。



3 シリンジ(注射器)を取り出す

外箱からプリスター(包装)を取り出した後、バレル(外筒)をつかんで、プリスター(包装)からシリンジ(注射器)を取り出してください。その際に、ピストン(押し)はつかまないでください。

以下のような場合は、使用せず主治医に連絡してください。

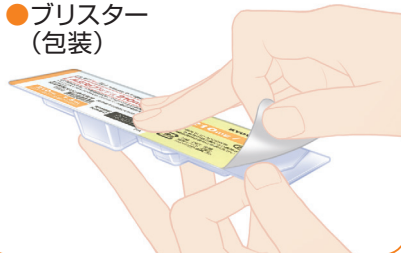
- シリンジ(注射器)の部品が揃っていない。
- ゆがんだりひびが入っている。
- 薬液が漏れている。
- シリンジ(注射器)内の薬液中に浮遊物がある。
- 薬液の性状に異常がある。

※薬液の色・性状：無色から淡黄色、澄明からわずかに白濁の液

●外箱



●プリスター(包装)



バレル(外筒)をつかむ



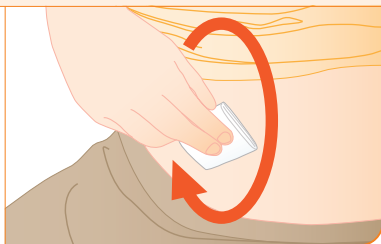
●シリンジ(注射器)



自己注射の方法〔腹部の例〕（補助具を使用しないとき）

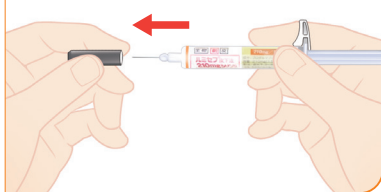
1 消毒する

注射する部位を決めたら、その部位を円を描くようにアルコール綿などでふき、注射する部分の皮膚を消毒してください。



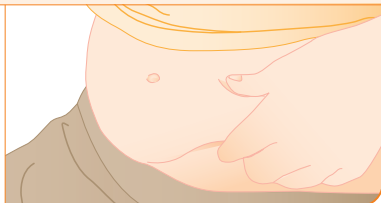
2 キャップを外す

シリンジ（注射器）のバレル（外筒）を持ち、水平にして、針についているキャップを外します。外すときに針がご自分の指などにさされないように十分に注意してください。



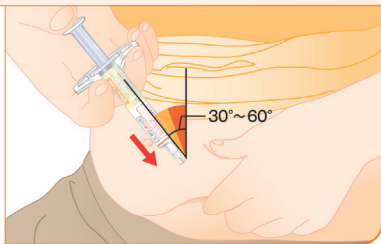
3 皮膚をつまむ

消毒した部分の周囲の皮膚を軽くつまんでください。



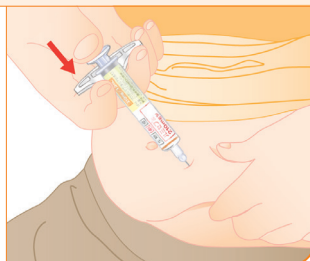
4 針をさす

シリンジ（注射器）の針を皮膚に対して斜め（30°から60°くらい）にして、針が全部見えなくなるまで、皮膚にさしてください。



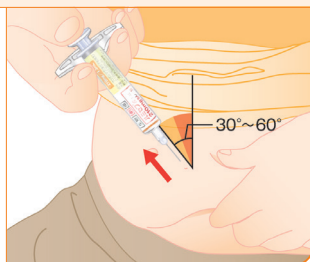
5 注入する

シリンジ(注射器)をしっかり持って、ゆっくりと時間をかけて(目安として10~15秒くらいの時間をかけて)ピストン(押子)を最後まで押し切ってください。



6 針を抜く

シリンジ(注射器)の中の液体が空になったら、注射をさせた時と同じ角度で針を抜いてください。



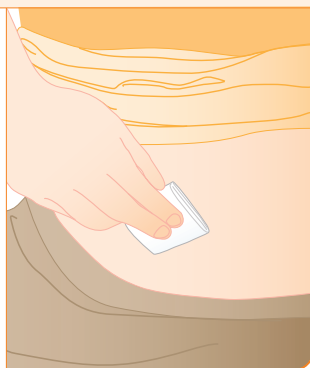
7 アルコール綿などで押さえる

針を抜いた後、アルコール綿などで静かに10秒程度押さえます。アルコール綿などを外して血が出ていない事を確認したら注射は終わりです。

注射した部位をもむとはれることがあるので、もまないように注意してください。

使用後のシリンジ(注射器)は針キャップをつけずに廃棄ボックスに廃棄してください。

※針で指をささないように注意してください。

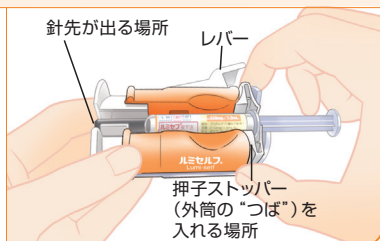


自己注射の方法（補助具を使用するとき）

●補助具への取り付け方法

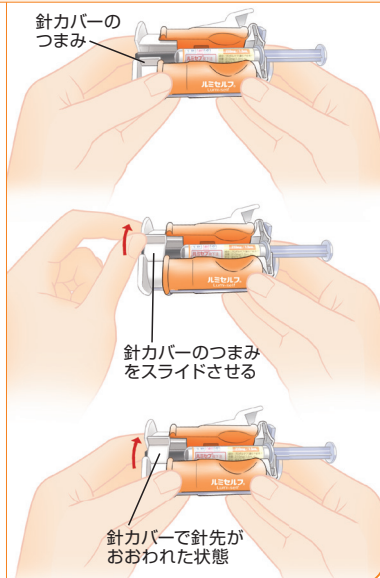
1 取り付ける

シリンジ（注射器）は、針キャップをつけたまま、イラストの向きに補助具に押し込みます。



2 針先を針カバーでおおう

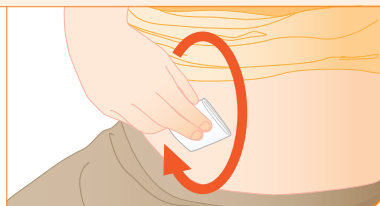
針先を針カバーでおおってください。針カバーでおおうことにより針先が見えなくなります。
※針カバーを使用しない場合でも問題なく投与いただけます。



●自己注射の方法 [腹部の例]（補助具を使用するとき）

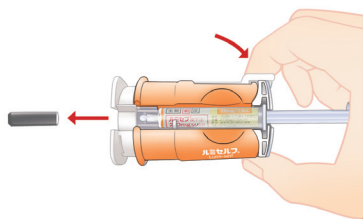
3 消毒する

注射する部位を決めたら、その部位を円を描くようにアルコール綿などでふき、注射する部分の皮膚を消毒してください。



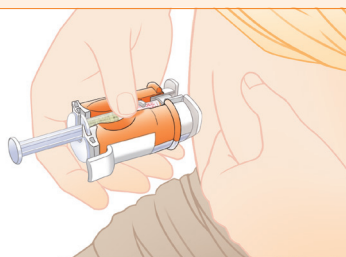
4 キャップを外す（レバーを押す）

ピストン（押し子）ストッパー（外筒の“つば”）側の白いレバーを押すとロックがかかり、針キャップがはずれます。

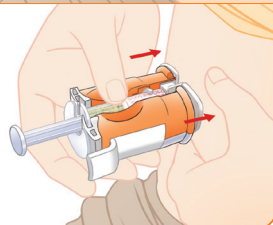


5 皮膚をつまみ、針をさす

片手で消毒した部分の周囲の皮膚を軽くつまみ、もう一方の手でシリンジ（注射器）が見える面を上にして補助具をしっかり持ってください。



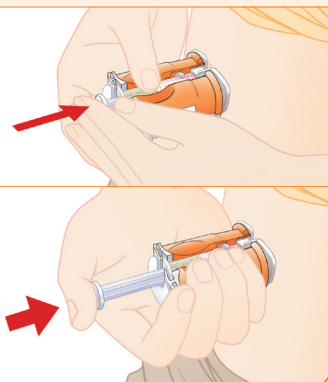
皮膚と垂直に補助具を押しあて、補助具の針側の白い部分が縮んで見えなくなるまで押し込み、皮膚に密着させて、針をさします。



6 注入する

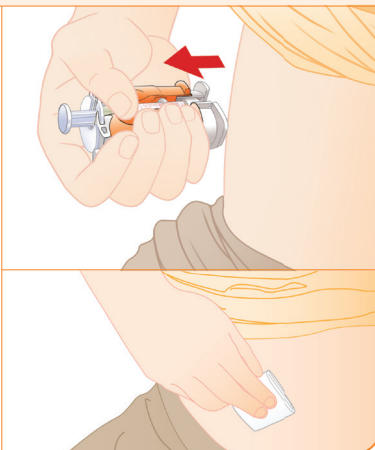
補助具を押しあてたまま、皮膚をつまんでいた手を離します。手でゆっくりと時間をかけて（目安として10～15秒くらいの時間をかけて）ピストン（押し子）を押してください。

※手の大きい方は、片手で注射することも可能です。



7 針を抜きアルコール綿などで押さえる

注入を終えたら、そのまま補助具を体から離します。
針を抜いた後、アルコール綿などで静かに10秒程度押さえます。アルコール綿などを外して血が出ていない事を確認したら注射は終わりです。注射した部位をもむとはれることがあるので、もまないように注意してください。



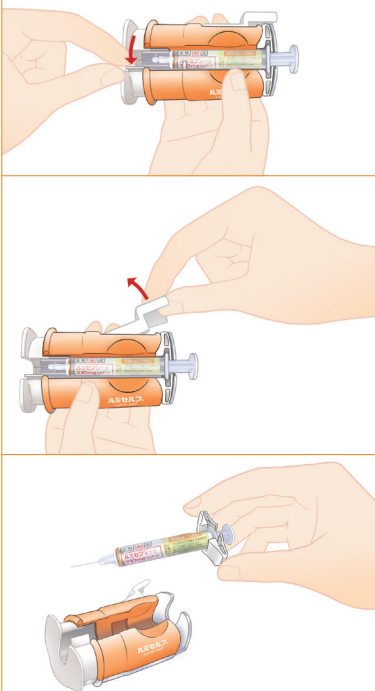
●補助具からの取りはずし方

8 シリンジ（注射器）を補助具からはずす

針カバーを元に戻して針が見える状態にして、シリンジをはずす準備をします。

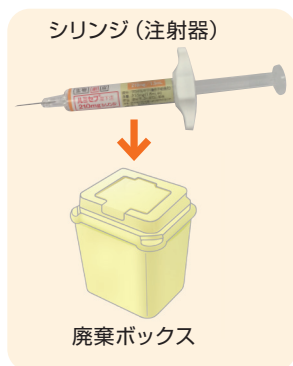
白いレバーを外側に引くとロックが解除され、シリンジ（注射器）を補助具からはずすことができます。

シリンジ（注射器）を取り出し、廃棄してください。
シリンジ（注射器）は針キャップをつけずに廃棄ボックスに廃棄してください。
※針で指をささないように注意してください。
※補助具は、繰り返しそのまま使用できますので、保管してください。



廃棄について

- 使用済みのシリンジ(注射器)が入った廃棄ボックスの廃棄方法は、主治医の指示に従ってください。
- シリンジ(注射器)は針キャップをつけずに廃棄ボックスに廃棄してください。
- 廃棄ボックスに入れた使用済みのシリンジ(注射器)は、小児の手の届かないところに保管し、家庭用のごみと一緒に捨てないでください。
- 特に指示がない限り、針キャップ、アルコール綿など、外箱およびプリスター(包装)は家庭ごみとして各市町村の収集方法に従い捨ててください。



※「アルコール綿など」および「針キャップ」を廃棄ボックスに捨てることも可能です。

注射部位と注射した日の記録

注射した部位と注射した日をルミセフ®の『体調管理手帳』に記録し、次回の注射に備えましょう。また、病院に行く際は注射の記録を持参し、医師や看護師のチェックを受けてください。



このような場合は、病院に連絡を

ルミセフ®を注射した後に、「いつもと何か違う」と感じたら、速やかに病院に連絡してください。

特に次のような症状があらわれた場合には、**次の受診日を待たずに、すぐに主治医や医療スタッフに連絡してください。**

胸 部：せきがつづく。

口や喉：嘔吐、のどの痛み、口唇周囲のはれ。

皮 膚：かゆみ、じんましん、発疹。

全 身：かぜのような症状、からだがだるい、発熱、さむけ、ふらつき、異常に汗をかく。

注射スケジュールについて

予定日に注射を忘れたら？



- 必ず主治医に連絡し、いつ注射したらよいか指示を受けてください。
- 体調管理手帳にも記載してください。
- 決して2回分を一度に使用しないでください。

予定日に注射できないときは？



- 予定日に注射できないことが事前にわかっている場合には、主治医に相談してください。

注射する時刻は一定の方が良いですか？



- 注射をする時刻は何時でもけっこうですが、注射を忘れないために、一定の時刻に決めて注射をする方が良いでしょう。疑問点があれば主治医に相談してください。

体調が悪いときも、 予定通り注射して大丈夫ですか？



- かぜのような症状があったり、体調が悪い場合は無理に注射をせず、主治医に連絡してください。

注射の準備について

シリンジ(注射器)内の空気を抜く必要はありますか？



- 皮下注射なので、シリンジ内に多少気泡が残っていても注射には問題ありません。空気を抜く場合には、シリンジをまっすぐ上に向け、気泡が一番上に上がるように、指でやさしくシリンジ(注射器)をたたいてください。その後、ピストン(押し)をゆっくりと上に押し上げ、針先から薬液が1、2滴出始めたら、そこで押し上げるのをやめてください。

注射の痛みを少なくするには？



注射で痛みを感じる場合は、これらのことを試してみましょう。

- 注射する部分の感覚を鈍くするため、注射する前に約1～3分間、保冷剤などで注射する部位を冷やしてから消毒し、注射を行ってみましょう。
- 薬液が冷たいと、痛みを感じやすくなります。シリンジの場合は、注射前に手のひらで1分程度温めてから注射を行いましょう。
- 針をさすときに長く時間をかけると、痛みを感じやすくなります。すばやく針を刺しましょう。
- 緊張すると痛みを感じやすくなります。注射前に3回深呼吸をし、4回目の深呼吸で息を吐くときに合わせて針を刺しましょう。シリンジの場合は、投与する時は4回目の呼吸に合わせて薬液をゆっくりと時間をかけて(10～15秒程度で)注射してみましょう。
- シリンジの場合は、薬液を急速に(目安として10秒未満で)注射すると、痛みを感じやすくなります。薬液はゆっくりと時間をかけて注射しましょう。

注射時、注射後について

ペンを注射部位に押し付けても、 薬液の注入が始まらない場合は？



- ペンが正しく押し付けられていないおそれがあります。ペンは注射部位に対して直角に当て、オレンジ色の針ガードが見えなくなるまでしっかりと押し付けてください。
- 腹部に注射する場合、皮膚が柔らかすぎて針ガードを押し込めない場合があります。皮膚をつまんで注射部位を固定してください。
- それでも薬液の注入が始まらない場合は、主治医に連絡し指示に従ってください。

注射の際に皮膚から薬液が漏れた場合は？



- 薬液が皮膚から漏れたことを主治医に連絡し、指示に従ってください。

薬液をすべて使い切らずに 薬液が残った場合は？



- 薬液をすべて使い切らなかった場合は、そのペンまたはシリンジは廃棄して、体調管理手帳に使い切らなかった理由を記入してください。

注射したところが 痛くなったり、かゆくなったりした場合、 どうしたら良いですか？



- ご自身の判断で対応せず、主治医に連絡してください。

注射した日にお風呂に入っても大丈夫ですか？



- お風呂に入ることはできます。ただし、注射の直後は避けてください。
- 入浴時には注射箇所をこすらないようにしてください。
- 熱や発疹など身体に異常がある場合は入浴を控えてください。

多く注射してしまった場合は？



- 多く注射してしまった後、体調が悪い、皮膚の状態がおかしいなど、何かおかしいなと感じたら、主治医に相談してください。
- 異常を感じなくとも、次回の診察時に多く注射したことを主治医に伝えてください。

※ルミセフ[®]は、1回につき1本のみ使用するお薬です。

A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.

